令和 5 年度第 2 回八尾市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会 議事録

日時: 令和 5 年 11 月 13 日(月) 14:00~16:00

場所: 八尾市役所西館 4 階 401 会議室

会議概要

【次第1. 開会】	
事務局	出欠状況報告 会議公開説明 当座部長挨拶 資料確認
【次第2. 第 7 期八尾市障がい福祉計画及び第 3 期八尾市障がい児福祉計画素案について①】	
事務局	資料①、資料②に基づき説明
	『質疑応答』
会長	資料③の見込量のシートは、算術平均を取って、増加率を計算するというやり方は大阪府が作ってるシートだと思っていいか。 つまり増加率って実は、算術平均を取るかどうかという、多分統計が好きな方はご存じかもしれないが、かなり議論がある。増加率は何を持って増加率とするかという議論がかなりある。 多分この計算式で違和感はないが、もし、大阪府あるいは政府等が「これでやるものだ」という大前提で議論が進んでいるのか、あるいは八尾市が独自に編集された計算方法なのか、そのあたりもしよろしければ教えていただきたい。
事務局	そちらについては、国や大阪府が「こうすべき」としたのではなく、八尾市で考えたもので、全体の計画も同じような考え方で算出していたので、そのあたりも踏まえて出したものである。
会長	細かい質問で申し訳ないが、増加率はかなり議論があるので、いろんな出し方があって、微妙に数値が違ってくる。 自立支援協議会の議論というのはいただいているか。
事務局	自立支援協議会の資料については、この素案を自立支援協議会の事務局でたいていただいているところで、スケジュール間としては、自立支援協議会の本会があって、下の部会とかがある構成になっているので、最終的にはパブリックコメントのタイミングぐらいに合わせて、市の方にいただくというようなスケジュール間になっている。
会長	パブリックコメントの時点では、自立支援協議会の議論は反映されてないものが出るということか。
事務局	はい。その時点では。
会長	他にご意見・ご質問はあるか。 もしかしたら、またあとで、全体を通してご意見出るかもしれないし、時間もあるので、また改めてご意見を頂戴することとして、「次第2. 第 7 期八尾市障がい福祉計画及び第 3 期八尾市障がい児福祉計画素案について①」については、一旦、終わりにして、次の次第のほうに移る形でよろしいか。

	では、一旦ここで質疑応答を締めて、「次第3.第7期八尾市障がい福祉計画及び第3期八尾市障がい児福祉計画素案について②」の説明をお願いしたい。
【次第3.第7期八尾市障がい福祉計画及び第3期八尾市障がい児福祉計画素案について②】	
事務局	資料①、資料②に基づき説明
	『質疑応答』
会長	<p>改めて各部会の委員の皆様においては、部会で修正等ご指摘された点が、反映されているかどうかご確認いただくとともに、全体を通してご意見を賜りたい。</p> <p>あるいは、先ほど意見が出なかったが、「次第2.第7期八尾市障がい福祉計画及び第3期八尾市障がい児福祉計画素案について①」の部分も含めて、ご意見を頂戴したい。できれば「〇〇について」ということを発言のされたいうえ、ご意見頂戴したい。</p>
委員	68 ページのペアレントメンターの人数を増やす件で、先ほど皆さんのありましたけど、後ほどまた修正の可能性もあるというところで、ペアレントメンターの人数が増えるのに、年間の受講者数が同じというのは課題になるという提案があった。今の説明で、連動するものがあるので、今直ってないんだと思うが、そのあたりご検討いただけたらということは部会で出ていた。
会長	<p>今の数値の件、68 ページの件が出たが、これに関係するご発言・ご指摘がもしあれば頂戴したいが、いかがか。</p> <p>事務局、今、委員のほうからご確認いただいたが、そういう解釈でよろしいか。連動するものであって、今後修正の余地があると。ちょっと説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>そのあたり、連動してるので様子を見ながらだが、ペアレントメンターがペアレントトレーニング等プログラムに直接携わる以外の事業もされるので、ここは少し、高度ではないのかなという部分がある。そのあたりは大阪府の動きを見ていきながら、数字については改めて調整はしたいと思う。</p> <p>現時点でこういうふうに出させてもらったのは、ペアレントメンターはペアレントメンターとして活動フィールドがあって、それとはまた別にトレーニングのプログラムとかというところは、どちらかというペアレントメンターではない事業所とかがやっていたかような部分という認識があったので、現状では切り分けた数字にしている。</p> <p>ただ、大阪府とか状況を確認しながら、今後、数字については修正も含めて見ていきたいと思う。</p>
会長	必ずしも綺麗に連動している訳ではないけれども、大阪府の動向もあるので、まだ書ききれないところがあるという趣旨と解釈していいか。
事務局	<p>はい。今の取組の中ではイコールではないので、少し切り離れた数字として。</p> <p>前回の部会で私のほうの説明不足というところもあったが、切り離して考えてる部分もある。大阪府の動きも見ながら、そのあたりは修正させていただく可能性もあるというところで含みおきいただいたらと思う。</p>
会長	<p>他にご意見・ご質問はあるか。</p> <p>ないようなら皆さんがお考えの間に、先ほど成果目標のところ、第5章63ページ一番下の行に「ICT活用によりオンライン相談等を行い、気軽に相談できる</p>

	<p>環境を整備します」とあるが、第 5 章第 3 期の障がい児のほうには書いてあるが、逆に第 7 期の障がい者のほうは同じような記述はあったか。今ちょっと改めて見ているが、まず入っているか。</p>
事務局	<p>入っていない。</p>
会長	<p>ちょっと参考までに。実は、子どものほうが入っていて、大人のほうが入っていないのも不思議な話でいうところが一つ。入れていただいてもいいのかなと見ながら思っていた。</p> <p>それからなぜかと言うと、そもそもこのコロナ禍の中でICTの良い面と課題と両方が発覚してきたので、もちろんICTで、なんでもオンラインでやればいいというものではないが、実際、必ずしも対面でやらなくてもいいものもかなりあるということがはっきりしてきたので、入れてもいいのかなと思う。</p> <p>そうすることによって、例えば公共交通不便だとか、あるいは体調、障がい等々でなかなか外に行くことが大変な方にとって、相談事業へのアクセスがしやすくなるというメリットがある。人によっては外に出ること自体、非常に抵抗がある方もおられる。</p> <p>それから大阪府の動向で言うと、大阪府の地域福祉審議会のほうで、全体として「ICTをもっと活用していこう」という話はある。ただ、もちろんそこには、ICTと言うと、苦手な人もいれば得意な方もいる。いわゆるギャップとか、使う人、使わない人によってあるので、全てよしという訳ではないが、書き込んでいただいてもいいのかなと思う。逆に言うと、書き込まないこと自体はちょっと不思議な気もするので、書き込んでいただいてもいいのかなと僕は思うが、皆さんいかがか。</p>
委員	<p>そもそもコロナが出た頃から、障がい者団体の会議とか、これを使ったのが多い。すごく全国規模の大きな会議でも気軽に家でできるので、自分なんかは重宝しているし、助かっている。</p>
会長	<p>他の委員の皆様はよろしいか。</p>
委員	<p>ICT を使うということについては、本当にいろんな意見があって、前の意思疎通部会の際にもかなり、ICT活用ということで意見がいろいろ出た。そんなところも踏まえて、ここに載せていくというのもいいことかなと思う。</p> <p>具体的意思疎通するうえでのツールとして、また次に障がい者の基本計画のところでも議論、検討もあるのかなと思うので、そんなところでも積極的に載せていける部分があればいいなと思う。</p>
会長	<p>ICTって何もスマートフォンじゃないといけないという訳ではないと思う。極論を言うと、いわゆるガラケーもICTなので、何もZOOMとかTeamsとかというものがICTとは限らないと思うので、広く捉えていただいたらいいと思う。</p> <p>ICTと言うと、スマートフォンとかZOOMとか、そういうオンラインの難しそうなソフトウェアのいわゆるカンファレンスのようなものを、皆さんつつい思われがちだと思うが、広く捉えていただいたらいいと思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>ICTの件だが、確かに第 3 期の障がい児計画のほうには含めていたが、第 7 期のほうには 30 ページに「支援者の現場におけるICTの導入、事務負担の軽減」としか書いてない。それだけだったので、やはりしっかりと今の意見を踏まえて、障がい</p>

	者の計画のほうに ICT の活用について記載をしたいと思う。
会長	<p>30 ページに確かに ICT、次にロボットという記載があるが、ロボットこそ、なんというか。否定されるものではないので、ロボットを現場で導入できるのか。</p> <p>今、事務局から説明いただいたように、積極的に入れ込んでいただくということで、お願いしたいと思う。</p>
委員	<p>部会のほうの論議の中では、相談の窓口のハードルが高いという話が出た。それで 64 ページの図のほうも、最初よりいろんなものが追加されているけれども、そこに行くまでの、近くの民生委員だったりとか隣のおばちゃんだったりということも含めてハードルを低くして、そして今の若い親にとってはやはり、そういうツールを利用したもの、メールとかそういうところから入るほうがいいだろうということになって、追加の意見としていただいた。</p> <p>やはり、小さいときにサポートの体制ができないというのが一番いけないだろうということでの論議なので、補足ということで。</p>
会長	<p>相談事業所ごとの相談件数、あるいは初期相談の数量的なデータというのはあるのか。バラつきが明らかになって、特定のところに偏っているとかが、偏っているということが悪いとは思わないが、そういうデータはあるのか。</p>
委員	<p>報告は出している。数は覚えてないが、年と言うとかなり量がある。</p>
委員	<p>はっきりとした件数は覚えていないが、すごい数が来てるところばかり。電話でもあるし、当事者が僕らも出たりするし、自立生活センターでやっているが、ここに全然上がってないのかな。</p>
会長	<p>いわゆるインテークというか、本当の最初の受付として捉えられた数というのはなかなか出て来ない。相談案件としてののっている場合だったらカウントされるだろうが。</p>
事務局	<p>今、委員が言っていたのは、サービスとしてではなくて、相談支援事業という形で 4 つの事業所に委託させていただいて、その分は毎年、事業報告という形で、数字はちょっと持ってきてないが、すごい数の相談件数がある。</p> <p>ただ、事業所それぞれによっては特徴が違って、身体障がいの方に強い事業所であったりとか、精神障がいの方に強い事業所であったりというところで、その相談支援自体の数が偏っているというより、カウントの仕方の統一性もまだ、これは全然、別レベルでうちの課題として取れてないということもある。</p> <p>ただ、それは一般というか、全体の入り口としての相談としての件数なので、4 つの事業所に委託させてもらってるので若干、偏りというか、その年によっては出てきてるところもある。</p> <p>かたや今回の福祉計画のほうは、計画素案とかの一般的な障がい福祉サービスとしての数というところで、今回は載せさせていただいてるというか、経過を含ませていただいている。計画相談といういわゆるケアマネージャー、ケアプランの作成みたいなどころ、そこも一般相談と特定相談と 2 つあるんだけど、そのあたりの数との兼ね合いというのは我々も精査していかないといけないのかなと思っている。</p>
会長	<p>相談といったときに、今、委員にご指摘いただいたように、最初にどこに行くかと</p>

	<p>いう、困りごとを抱えておられる、例えば、障がい児のお母さん、障がい者あるいは、精神障がい等々なられたご本人の中で「どこに相談しよう」という意味での最初の相談という意味と、計画相談というサービスをどうやってプランニングしていくのかという相談とは分けて数値を取ったほうがいいというふうに思う。</p> <p>今回の計画案は、基本計画とか今後モニタリングしていくときにこのあたりの数値を議論しながら、何が足りてないのかあるいは、場合によったら何が特定の事業所にご負担になっているのか。それは単に事業所によって、得意不得意の分野、不得意と言ったら失礼だが、どこを専門とされているのかということだけじゃなくて、明らかに荷重な負担になっているところがあるのか否かとかということもあるので、これは今日ここで何かというよりも、今後、来年、再来年以降あるいは、場合によったら次期計画を立てるときとかに議論していく必要があるのかなと思いつつ話を聞いていた。</p>
委員	<p>相談関係で言うと、これは障がい者のほうの議論だが、計画の 56 ページのところの一番下の見込量の中に、あえて下線で追加していただいたが、市民アンケートで「困りごとの相談相手がない」とか「どこに相談したらいいのかわからない」というのがアンケートでも結構出ていた。なので、そのあたりあえて追加していただいて記載をしたんだけど、何の事業をするにしても相談を作るんだけど、どこに行ったらいいのかわからないという方が一定数出てきて、これは本当に工夫してると思うんだけどなかなか解消されない部分なのかなと。</p> <p>先ほど障がい児のほうで「ハードルが高い」という声もあったが、一般的に相談機関じゃなくても隣近所とか、地域の役をしてる人に声をかけたらどこかへ繋がるとか、そんな関係づくりをめざしていく部分なのかなというようにことは依然として思っているところである。</p>
委員	<p>相談に関しては私は、障害者差別禁止法から障害者差別解消法に法律が変わったから、相談する人もたくさん増えるだろうなと私は期待していたが、実際に福祉会館の 2 階に相談窓口があるけど、閑散たるもの。「障がい者は悩みごとを持っていないんじゃないか」と一般の人はそう思うかもしれない。だから下駄履きでも相談する窓口を作るだけでなく、それを行政が PR してほしい。それが第一。</p> <p>やはり昔と違って、昔は「雨降ってきたから、はよ洗濯物入れや」と黙ってても、隣はどこの誰がどうしてるかみんな分かっている、だから住みやすかった。けど今はそうじゃない。「私は私、あなたはあなた」「関わりたくない、関わってほしくない」という現代の世の中であるから、隣のおばちゃんが目が不自由だけど何で失敗してるのか、何で困っているのか全然わからない。だから行政の人はやはり、障害者差別解消法というすばらしい法律ができたのだから、それに対する相談所の PR、それをしてくれない限り障がい者は困ってしまう。</p>
会長	<p>今の件について他の委員の皆様、何かご指摘あるいは、同じようなご意見、思われるところがあれば。</p>
委員	<p>障がい児のほうで、64 ページのイメージ図だが、ここに書いてあるもの全て、入口になりうる機関だと思うが、仰るように知らないところがいっぱいある。委員の中にも「ほっぷって何？」ということがあったので、実はほっぷの担当課の課長に</p>

	<p>てもらって説明していただいた経緯がある。</p> <p>市としてはホームページとかいろんなところで広報しているが、なかなか届いていない部分があるというのは仰る通りだと思うし、そのあたりのことについてはもっともっと広めていかなければいけない。それプラス、やはりさっき言った隣近所のネットワークの大切さというのも部会の中で出ていて、それは今度八尾市のほっぷという一応、ワンストップのところを市として置く。それプラス発達支援センターで活かそうと。そこが中心になるが、教育関係としては教育センター、学校行くときとか、幼稚園行くときの窓口になるという形で。多分このデータは全て揃うと思うけどそれだけではやはり、全体像が見えてこない部分があるので、市としてはトータルで、どこの窓口でどういうことがあってどこに繋いだかというネットワークをしっかり繋いでほしいし、把握してほしいということは部会の中で出ていた。</p>
会長	<p>相談するところを作っても、残念ながら相談される方が全く来ないとなって、「障がい者の方は悩みごとがないんですか」というふうに思われてしまいかねないという委員のご指摘で。障害者差別解消法ができたんだから、相談にもっともっと来てもらえるように、行政としてはアピールしてほしいというご指摘があった。</p> <p>障害者差別解消法ができたから相談しようかという、委員に反論するわけではないが、これは僕はあんまり、必ずしも連動するかどうか。</p> <p>多分、一番最も大きな原因は委員が仰った差別慣れ。障がい者の人からすると、本当だったら声を上げてほしいところを「もうこれでええんちゃう？」みたいな感じになってしまうという残念なことが多くある。そういうことも言ってほしい。</p>
事務局	<p>今、相談支援についてご意見をいただいたが、我々も委員が仰るように、団体をお願いしている障がい者相談であるとか、委託で相談支援事業であるとか、さまざまな入口の相談というところには力を入れさせていただいてるが、仰るようにまだまだ全ての方に周知ができていないというような状況ではないというふうに考えている。</p> <p>やはり障がいのある方にしっかり情報をお届けして、不安なく日常生活を営んでいただくということを障害者差別解消法、合理的配慮にあたるというふうに考えている。本当に PR というような部分では、しっかりと「そういった窓口がある」と、これは何も、我々障がい福祉課が開設している相談窓口だけではなくて、64 ページにある、これは障がい児のほうだが、そういった各それぞれの窓口についてしっかり市民の皆さんに周知を図っていくというような大切な役割だと思っているので、56 ページ等々、記載をさせていただいているところである。</p>
委員	<p>行政は綺麗事ばかり言う。結局うちのところの視覚障がい者の団体の方、100 名近くおいでになるけれども、いろいろな悩みを持っている人がたくさんいて、それで相談するのはやはり、事務局とか役員とかそういう人で「行政に行って相談してきたんや」ということは悪いけど 1 件もない。だからやはり PR が大事。ちょっとしたことでも「あそこ行って相談してこよう」という気持ちになれるような場所を作ってくれたら、障がい者はとても楽しい日々を送れるんじゃないかなと思う。</p> <p>私たちが相談に乗っても中途半端な人間だから「こうやって、こうやったらいいんじゃないかな」と言っても回答は 50%で、完璧な回答はしていない。だから障がい</p>

	<p>者自身は不安な毎日を送っているわけで、専門的な賢い行政の頭の人をご回答くれたらルンルン気分で生きていけるんじゃないかなと思う。</p>
会長	<p>あえて伺うが、行政の人にどんなアピールをされたいと思うか。</p>
委員	<p>視覚障がい者の人たちの立場にたったとき、専門の行政とかそういう人に相談に行ったらいいんだけども、やっぱりどうしても敷居が高い。「相談に行ってみたら」と言ったら「1つ言ったら10個くらい返ってきたらいやだ」とか、いろんな返事が待っている。だからその人の立場になって、そこで一緒に悩んでやる、そういうような行政になってほしいと思う。下駄履きでちょっと相談に行けるような。</p> <p>「障がい福祉課にちょっと相談に行ってみたら」と言ったら「私言ったら10個くらい返ってくるし、それも内容がわからない」というご返事がくるので、障がい者が行政を身近に感じるような行政になっていただけたらいいが、なかなか難しい。</p>
会長	<p>永遠の課題かもしれない。</p> <p>余談だが、小学生の子どもさんがいたりしたら、地域との繋がりがどうしてもできるもの。例えば学校の旗振り、横断歩道の旗振りの役とか回ってくるから、PTAとか横の繋がりができるんだけど、例えば子どもさんが私立の学校に行るとかあるいは、学齢期を過ぎちゃったりしたら、地域との繋がりは劇的に減ってしまうというのもある。</p> <p>先ほどアンケートで委員がご指摘された「どこに行ったらいいかわからない」という、56ページに市民アンケートの引用があるが、例えばこの「困りごとの相談相手がない」と答えた人は具体的にどういう属性の人だったかという、業者さんだったら、こういうの出すの excelとかソフトウェアで一瞬で出さるので、今日じゃなくてもいいのでまた教えてほしいなと思う。どういう人がこういう回答をなさる傾向があるのかというのは結構大事になってくると思う。一番恐ろしいのは、非常に重度の障がい等々でニーズが高いであろうということを仰っていたら本当に、何かしらお願いしたい。せっかく取ったアンケートなので、場合によったら来年度、基本計画を立てるときに議論してもいいのかなと思う。</p>
委員	<p>もしかすると計画を立てるといことはズレるかもしれないけれども、資料②に障がい者と障がい児支援部会での意見のまとめをしていただいて、ページでいえば4ページと14ページにあたるのかなと思うが、やはり相談支援事業所自体もそうだし、ヘルパーの事業所自体もとても、サービスができる人が今少ない。ただ、計画的にはどんどん「ニーズはありますよ」って打ち出すのが、私が心配してるのは「じゃあ果たして、誰ができるの?」という話で。</p> <p>障がい児も障がい者も両方そういう意見があって、なんとかしていかないといけないということもあるんだけど、相談支援事業所なんかは本当に、ひっきりなしに外にも出ているし、電話しても繋がらないというのが多分、どこも今一緒だと思う。そんな状況なので、例えばヘルパーさんを養成するように「講習できたらいいのかな」みたいな話もあがったりもしたが、計画は計画で立てないといけないけれども、じゃあ絵に描いた餅だったら意味がないので「きちんとこのあたりは考えていかないといけないね」という話で一応終わったが、計画書にも盛り込みにくい内容だし、あんまりだが、ちょっとここは大事なところかなと思っている。</p>

会長	<p>ニーズがあって「サービス提供します」と言っているが、いくら言ってもサービス提供してくださる人材が足りていないことを考えた場合、絵に描いた餅で終わるのではないかということで、本当にまさにそのとおり。</p>
委員	<p>コロナのほうがちよっと減ってくると、外出しようという人がかなり増えてくる。うちのところにも需要はあるが、応えられるヘルパーがいない。だから養成講座をやろうかなと思ったりしている。</p>
会長	<p>離職される方もおられるだろうし、コロナで仕事がなくなって。そういう方が戻ってくるかと言うと、なかなかすぐに戻ってこれるとは限らないと思う。</p> <p>今の件に関して、もし、ご発言があればお願いしたい。</p>
委員	<p>やっぱり福祉人材の不足というのは特に深刻。求人してもなかなか来ないし、来たからと言って質が担保できるかと言うと、なかなかそこがつかないので、障がい児のほうの相談受けても「頼んだけど、もう二度と使いません」とか、逆にね。発達の子だったら対応ができなくて危ない状態で、それこそ無理矢理移動せざるを得なかったりとか、そういうことがよくある。</p> <p>これはこの問題じゃないかもわからないけれども、計画にはやはり、教育も全部そうだが、人の確保と資質も含めたものが絶対にいるので、そのあたりは行政も含めて計画的にやっていただかないと、こういうものを使いたくても使えないという状況がある。今非常に厳しい状況だと思う。</p>
会長	<p>今の件に関して、特にご発言されていない委員でもし、何かあれば。今の件に関しても別の件でもどうぞ。</p>
委員	<p>あまり関係ないことだが、地域の委員をやっていて、このコロナの4年間で非常に大きい。子どももそうだけど、今コロナが減ってきて、地域の行事をいろいろ始めているが、3年前に上がり調子だったのがコロナで下がってしまって、これからいろいろやっていくけれども、相談というところに関しては小学校なんかでは、発達障がいの人はかなり「この子だったらちよっと見てやれば、本当によくなるのに」みたいに、子どもを見てて思うけれども。やっぱりそのあたり、先生にも相談しにくいのか、先生もまた、保護者に対して言いにくいのかなという面もちよっとある。</p> <p>だから地域がある程度中心になって、いろいろ周りを見ていけるようになったら違うのかなと思う。</p>
副会長	<p>私は発達障がい専門なので、少し。発達障がい児・者の支援をやっている。</p> <p>さっき仰った発達障がいの子もってというのはデコボコなんだけれども、伸びていく子で。でも教師や、私は心理士だが、その子どもを見立ててはいけないというのがある。医者のみが診断をするという。</p> <p>ある学校である先生が今までの経験から発達障がいの診断を受けて、親御さんと共にその子を見て行こうと思った先生がそれを勧められて、訴訟に行くようなことがあった。「うちの子障がいや言われた」みたいな。だからやっぱり人権上の問題で先生が保護者に「障がいの傾向があるかもしれませんね」というのは難しい。</p> <p>でも私が今、教職課程で学生たちに教えているのは、関わりがユニバーサルになっている。だから伸びていく子どもたちにどう関わっていくかということで、そこに診断名はいらない。だから困っているところにどういうふうな関わりをするか、工</p>

	<p>夫をするかっていうのは多分先生方も、いろんな研修を受けておられてご存じなんだろうが、やっぱり学校のシステム上、たくさんの子どもの相手をするという中で、少し難しい点というのはあるのかなとは思う。</p> <p>発達障がいの子どもたちへの関わりっていうのは多分、人格否定をされることがとてつもなく多いと思う。それで二次障害を起こすのだが、そうではなくて困っているところにどういう工夫をするかっていう、それは多分、先生方もされているのかなとは思いますが、なかなか学校システム上、難しいところもあるのかなとは思う。ただ、見立ててはいけないというのが基本にあると思うので、先生方も「発達障がいの傾向があるな」と思えば、その特性に応じた対応をするだけでいいと思う。診断名はそこには関係ないかなというふうに思った。</p>
委員	それは思う。
会長	<p>一つ補足だが、地域に相談するかと言うと相談しない可能性が大だと思う。厳しいことを言うけれども、なんでかと言ったら発達障がいの話って非常にわかりづらい話で、今日先生がいらっしゃる前でこんなことを言うのもあれだが、発達障がいて他の病気みたいに綺麗に診断がつくものでもない。</p> <p>例えば発達障がいの診断をつけるかどうかというときに、心理士さんがテストしてもそのテストが、たまたまその日の調子とかで結構変わるもので、テストって非常に数時間かけてやるので、子どもからするとクタクタで、保護者もクタクタだし、そうするとパフォーマンスは変わる。例えばある時はこういう結果が出たけど、あるいは1か月後やってみたら特定のエリアが上がったり下がったりとかということが起こるので、発達障がいの診断をつけるかどうかはドクターも結構慎重だというふうに僕はよく聞く。</p> <p>もう一つ心配なことは、例えば保護者の方と担任の先生との間に信頼関係ができていたとしても、恐らく保護者の方は、細かい話を担任の先生にはするけど「この話を学年主任、教頭、校長には伝えないでください」と仰ることもある。だったら「はなから言わないでおこう」とか「基本的に担任の先生に言ったことは全部、管理職に筒抜けだから」というふうに思ってしまうので。あるいは逆もあると思う。担任とは関係悪いけど、教頭先生とは仲がいいとか結構あるので。</p> <p>そのあたり、すごくお詳しいと思うけれども、なので、なかなか発達障がいをどこに相談するかというのは、発達障がいのお子さんをお持ちのお母様方、あるいはご本人さんからすると非常にセンシティブな話になると思うので、それはまたどこかで議論してもいいのかなと。</p> <p>仰ったように診断名なくても対応していただけたらいいなという話なので。</p>
副会長	<p>相談ということが今ここで話題になっていたが、私はそれを伺いながら、発達障がいに関しては検診で一応ふるいにかけてくれるというか、検診で受給者証っていうのを使って、事業所につなぐということをしてきているのではないかと思う。大体その受給者証を使いながら、それは診断はいらないし、医者の方の見というのがあればいいのか。受給者証というのは。</p> <p>それで事業所とそこで繋がるという人をたくさん知っている。そこで繋がって受給者証を使って、それでそういう傾向がなければ、そのまま受給者証は行政に返す。</p>

	<p>あるいはそのまま使い続ける、使い続けても療育がゆっくり、ゆっくりであったら、そのまま療育手帳というケースをよく知っているけれども、その場合は相談窓口というのは機関が中心になると思っている。それで組み立てていくから、ずっと繋がるんじゃないかなと思う。だからまずは検診で繋がって、発達の場合はそうじゃないかなと思う。大人になってから診断を受けたりする場合は、どこに窓口を持っていくのかっていうのは多分、医療機関が「こういうところ行ったらいいよ」みたいに繋げてくれるんじゃないかなって思う。</p> <p>あと身体とかの部分はちょっとよくわからないが、発達や知的に関して言えば、相談ってというのは繋がっていくんじゃないかと思った。</p>
会長	もし今の件で何かあれば。
委員	発達障がいって難しい。
会長	<p>ちなみに学齢期で疑われた場合、もっと難しい。なかなか発達障がいと言いづらいつころもある。</p> <p>他はいかがか。特にないか。</p> <p>今日いただいた議論のいくつかは、次年度の基本計画のほうに持ち越すというよりも、むしろ基本計画で議論して、しっかりそのあたり盛り込んでもいいのかなと思う。あるいは場合によったら、人材養成で例えば、地域福祉計画とかで議論していただいてもいいのかなと思う。どの分野も人材不足というのはあるので、障がいだけではないと思う。</p>
委員	用語集の件だが、バリアフリーのところは 4 つのバリアを書いてもらっているけれども、用語の中には社会的障壁の説明しかない。バリアフリーのほうに 4 つのバリアについて書くというのでもいいのではないかな。社会的障壁だけがむき出しで説明があって、あとは 4 つの名前と解説しかないのだからそこを盛り込んでいただいたほうがいいのではないかな。
会長	事務局のほうで適宜修正していただくということでよろしいか。
事務局	はい。
会長	では、一旦これで質疑応答を締めさせていただきます、最後「次第4.今後のスケジュール等について」の説明をお願いしたい。
【次第4.今後のスケジュール等について】	
事務局	<p>事務局で修正案を作成後、副会長に内容を確認していただく</p> <p>計画素案の修正後(パブリックコメント前には委員の皆様にご報告)</p> <p>パブリックコメントの実施(12月1日～12月28日)</p> <p>計画の最終版は令和6年2月頃に第3回目の分科会を開催後、委員の皆様の承認を経て、計画を確定後、八尾市社会福祉審議会でご報告</p>
副会長	閉会の挨拶